

■ 令和3年度 第2回 新潟市スポーツ推進審議会

日時：令和4年3月15日（火）午後2時から

会場：白山会館 1階 芙蓉

（司 会）

令和3年度第2回新潟市スポーツ推進審議会を開催いたします。

進行を務めさせていただきます、審議会事務局スポーツ振興課の新井田です。よろしくお願いいたします。

はじめに本日の配付資料を確認させていただきます。お手元の資料をご確認ください。会議次第、席次表、委員名簿、続いて資料1「令和4年度スポーツ振興課当初予算（案）」、資料2「スポーツに関する市民意識調査報告書 概要版」です。続いて、参考資料1「スポーツに関する市民意識調査ご協力のお願い」。補足で、資料1ですけれども、1-1、1-2とセットになっております。参考資料2「（仮称）第3次『スポ柳都にいがた』プラン策定スケジュール（案）」です。また、今年度1回目の本審議会におきまして、案としてご審議いただいた第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画第4期の完成版もお配りしております。その他冊子で、「躍動」も配付させていただいております。以上、お手元にございますでしょうか。

続きまして、定足数の確認です。本日は、19名の委員のうち、14名からご出席いただいております。新潟市スポーツ推進審議会条例第7条第2項の規定により過半数の出席を得ますので、本会議は成立いたしますことをご報告します。

なお、本審議会は、新潟市附属機関等の会議の公開に関する指針に基づき、原則として公開で行われ、会議録につきましては後日、市のホームページに掲載いたします。本日は、会議録作成のため、録音させていただきますことをご了承ください。

それでは、次第2、はじめに文化スポーツ部長長浜よりごあいさつを申し上げます。

（文化スポーツ部長）

皆様、こんにちは。文化スポーツ部の長浜でございます。本日は、年度末のお忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

コロナが2年以上続いていまして、マスク生活が当たり前になって、多分、マスクを取った顔を知らない者同士が顔を合わせるような場面になってきてしまっているのかと、少し寂しいような、でもありがたいような、私の場合はですけれども。そのほうがいいのかということもなくはないのですけれども。

それはさておきまして、そういったコロナの影響ということプラスここ最近の暗いニュースとしては、ウクライナとロシアの間の戦争ということで、世の中が閉塞感からなかなか抜け出せないでいるという中で、スポーツというものがどういう役割を果たすべきなのか。あるいは、そういったことがスポーツにどういう影響を与えているのかということが気にかかる今日この頃でございます。

ただ、一方で明るい話題というか、スポーツにとって追い風としては、昨年東京2020、そして先般終わりました冬のオリンピック北京大会があったわけで、そういうものを見る中で、スポーツの関心の高まりというような、新しいスポーツも含めて関心の高まり、あるいは日本の選手、地元の選手の活躍が私たちに明るい気持ちとか、そういったものをもたらしてくれているというような面もあるかと思っております。

本市におきましても、この2年間なかなか思うように沸かせない状況がございましたけれども、今年こそは、シティマラソンをはじめとした各スポーツのイベントをしっかりとやっていきたいと、職員一同意気込んでいるところでございます。

ただ、こういった状況を踏まえますと、ウィズコロナあるいはアフターコロナにおけるスポーツのあり方というものは、必ずしもコロナ前の状況と同じではなくて、新しい形、新しい環境に対応したものを考えていかなければならないのだろうということも、一方ではあるかと思っております。来年度は、新潟市の総合計画の策定、そしてそれと同時進行で、新潟市のスポーツ推進計画となります、スポ柳都にいがたプランの改定作業も行うわけで、委員の皆様方には、策定委員の皆様を中心にいろいろご苦労いただくわけですが、そういったことを、皆様方からのご意見をしっかりとお受けしながら作ってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、来年度の事業等を中心にご説明を申し上げますが、皆様方からのご意見をぜひ伺いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日はよろしく願いいたします。

(司 会)

続きまして、スポーツ推進審議会の西原会長よりごあいさつをお願いいたします。

(西原会長)

審議会の会長を務めております西原です。本日は、年度末の大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今、部長からもお話があったように、東京オリンピック・パラリンピック、それから北京オリンピック・パラリンピックが終わりましたけれども、私が思った印象というのは、皆さんも同じことをお考えかも分かりませんが、どちらかという、このオリンピック・パラリンピックの二つは、金メダルを取るということもすご

く大事ですけれども、それ以上に人と人との選手間同士のコミュニケーションとか、あるいは人をリスペクトする力とそんなものが発信されるオリンピック・パラリンピックではなかったかと思っております。そういう意味では、スポーツの力というものは改めて素晴らしいものがあると思っています。

残念ながら、新潟県あるいは新潟市も今、コロナ禍等、今回のオミクロン株で部活動がなかなか思うようにできないという状況がしばらく続いていました。ようやく再開してというところもあるようですけれども、やはり先ほど部長がおっしゃったように、我々はいい意味でコロナにもう慣れてきた、分かってきたので、どういうふうにコロナとともに、ウィズコロナでスポーツをやっていくのかというノウハウもだいぶいろいろなことで蓄積されてきているのではないかと思っています。やはり、スポーツの火を絶やさないということはすごく大事なことです。ぜひそんなことも考えながら、今日二つ審議することがありますが、皆さんにまたご意見をいただきながら、新潟市のスポーツの振興をどんどん進めていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。

続きまして議事に入りますが、先日、皆様に事前にお送りしました次第に記載していただいた財産経営推進の取組みは、所管課の都合によりまして、今回は議事から見送りとさせていただきます。本日審議いただく議事は、2項目となります。

ここからの会議進行について、審議会条例第6条第3項および第4項に基づき、西原会長をお願いいたします。

(西原会長)

それでは、ご指名ですので、さっそく議事に入りたいと思っております。

(1) ですが、スポーツ振興課の令和4年度当初予算について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

スポーツ振興課長の武藤でございます。今日はよろしく願いいたします。

令和4年度のスポーツ振興課の当初予算につきまして、ご説明をいたします。使用いたします資料につきましては、資料1-1、そして資料1-2となります。こちらをご覧ください。

予算につきましては、当2月議会の議題となっております。議決前ということもございまして、当初予算案となっております。新潟市スポーツ推進計画第2次スポ柳都にいがたプランでは、健康スポーツ、競技スポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツの四つの基本方針と、それぞれの分野にまたがるスポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制を5

つの柱として施策を推進することとしております。

当課が所管する令和4年度当初予算につきまして、その柱ごとにまとめて一覧にしたものが1-1でございます。1-2につきましては、それぞれの事業、全部ではないのですが、主だった事業につきまして、概要を記載させていただいたものが1-2となります。私の説明は、1-1をベースに説明させていただきます。必要に応じて、1-2をご覧いただければと思っています。1-2につきましては、先ほど申し上げた基本方針ごとになっておりますので、よろしくお願いします。

では、資料1-1の、まず予算総額でございますが、表の一番下の合計額をご覧ください。令和4年度当初予算額は4億4,084万5,000円でございますが、今年度の令和3年度に比べまして、1億2,830万8,000円の減となります。

この大きな理由といたしましては、みるスポーツの記載でございます、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の、主に合宿対応というような事前合宿対応ということになりますが、事業が令和3年度にあったということで、これがなくなった部分が丸々落ちていくような形になっています。

それでは、上から説明させていただきます。人件費につきましては、先ほどの報告に入っておりませんが、全体にかかる部分ということで、スポーツ振興課の職員14名分の人件費となっております。

続いて、健康スポーツに関する事業でございます。まず、新潟シティマラソンでございますが、1万2,000人のランナーを募集し、萬代橋や榎谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を臨みながら走る、本市の一大スポーツイベントということでございます。台風や新型コロナウイルス感染症の影響により、中止、延期になっておりましたが、4年ぶりに開催をしたいと思っております。併せまして、共生社会の実現に寄与するため、障がいや、年齢を問わず参加できる種目、仮称でございますが、「ユニバーサルラン」を新設したいと思っております。

次の、少年少女スポーツ大会は、小学生を対象とした野球、サッカー、バスケットボール、バレーボールの4競技のスポーツ大会を開催するものでございます。

次の、早起き野球大会は、日本有数の参加チームを誇る、早起き野球大会を開催し、大会を通じてスポーツの振興と健康増進を図るものでございます。

次の自転車活用事業は、6月に開催されます、自転車で市内を巡る新潟シティライド、それから9月に岩室から弥彦山を駆け上がる新潟ヒルクライムを実施いたします。

その下、氷上スポーツ体験学習については、児童に氷上スポーツに親しんでもらうため、市内の小学校在アイスアリーナで校外活動を行う場合に、その利用に際する経費を助成する

ものでございます。

続いて、基本方針の二つ目、競技スポーツでございます。新潟市スポーツ協会補助金につきましては、各種大会の実施や指導者の育成、ジュニア層を中心とした選手の育成強化を図る新潟市スポーツ協会に対し、運営費などを図るものでございます。

少し飛ばしまして四つ下、障がい者スポーツ大会関連事業につきましては、10月に行われます全国障がい者スポーツ大会へ、今年は栃木になりますが、政令市としてチームを派遣するものでございます。

その他、大会に向けて出場する選手の選考のために、県とともに県大会を開催することとしております。

次の、「目指そう、支えよう、パラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業は、障がい者スポーツの普及のため、パラスポーツの用具の貸出等を行いながら、パラリンピアンによる障がい者スポーツの体験会などを開催するものでございます。

続いて、みるスポーツでございます。三つ目の、子どもスポーツふれあい促進事業は、小学生を対象としたサッカー教室や、プロサッカー選手育成スタッフの中学校、クラブチームへの派遣指導を通じて、技術レベルの向上や交流を図ってまいります。

アルビレックス新潟観戦招待事業につきましては、サッカー、野球、バスケットボールのプロチームのホームゲームの親子観戦招待を行うものでございます。

国際・全国大会等誘致に向けた合宿受入れ事業につきましては、新潟市文化・スポーツコミッションと連携をしながら、ナショナルチームをはじめとしたトップチームの合宿を誘致して実績を積み上げることで、その後の国際大会や全国大会の誘致、開催につなげるものでございます。

支えるスポーツは、1-2にないのですけれども、当課所管の陸上競技場ですとか新潟市体育館の指定管理料、修繕費、スポーツ推進員の皆様の人件費、研修費、当審議会内に設置のスポ柳都にいがたプラン推進会議各費用などを計上しております。

続いて、スポーツ情報ネットワーク・医科学支援体制でございます。「目指せオリンピック！医科学サポート事業」につきましては市スポーツ協会の事業であります。トップジュニア選手育成を行う強化現場にスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニングの調整、本格的なトレーニングを行うことで、選手のスポーツ活動をサポートする事業として実施しております。

最後にスポーツ振興諸経費でございますが、本審議会の開催経費や当課の事務費などでございます。よろしく願いいたします。

(西原会長)

ありがとうございました。それでは、今のご説明について、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。よろしいですか。もし、あとでお気づきの点がありましたら、そのときをお願いいたします。

それでは、(2)になりますが、スポーツに関する市民意識調査の結果についての報告を事務局からお願いいたします。

(事務局)

スポーツ振興課の橋本と申します。

それでは、スポーツに関する市民意識調査の結果について、簡単に報告をさせていただきます。お手元の資料2が報告書の概要版で、参考1として調査表をお配りしています。

今回の意識市民調査は、前回調査が現在のスポ柳都にいがたプランの策定の際の平成26年度でしたので、約8年ぶりの調査となりました。調査項目は前回調査をベースとし、スポーツ庁が毎年実施している調査の参考としまして、昨年9月の第1回策定検討委員会を経て決定した項目となっております。

それでは、資料2のページをお開きください。2の調査の項目ですが、記載の(1)から(6)のとおり、この1年間の運動やスポーツの実施状況、スポーツ観戦、運動、スポーツに関するボランティア活動、やってみたい運動やスポーツ、今後の本市のスポーツ振興となっております。調査対象者は、満20歳以上の市民の方4,000人として、有効回答は1,902人で、約47.6パーセントの方から回答がありました。今回の調査の大きな目的でもある、スポ柳都にいがたプランの、週1日以上スポーツをする市民の割合については約52パーセントでした。来年度末の目標の65パーセントには達しませんでした。前回の調査の47パーセントと比べて5パーセント上昇しています。

それでは、6ページ以降に詳細が記載してありますので、そのうち主なものについてご説明をいたします。6ページをお開きください。この1年間の運動やスポーツの実施状況についてですが、7割以上の方が実施しており、前回調査と比べましてほとんど差は見られませんでした。また、その内容が8ページにありますが、ウォーキングを行っている方が非常に多く7割以上となっております。以降体操、階段昇降、トレーニング、自転車、サイクリングが高い数値となっておりまして、気軽に行える体を動かす運動が上位にあるような感じはしております。前回の調査と比べましても、同様の結果となっております。

続きまして、10ページをご覧ください。運動やスポーツを行った年間の日数についてですが、週に2日以上が14.3パーセント、週に3日～4日が24.4パーセント、週に1日～2日は32.8パーセントで、合わせて約72パーセントの方が週1日以上運動やスポーツを行っていることとなります。

続きまして、12 ページをお開きください。運動やスポーツを行う理由についてですが、約 8 割の方が健康体力づくりのために行っており、以下、運動不足や楽しみ、気晴らしを理由としております。

続きまして、16 ページをお開きください。運動やスポーツを行った場所についてですが、一般道、サイクリングロード、トリムコース、公園、広場、空き地が約 5 割と一番多く、これは先ほどの 7 ページで、実際に行ったスポーツの中でウォーキングを行う方というのが一番多かったと思いますが、そことの関連性が伺えるのかと思います。また、自宅または自宅敷地内で行う方が、前回と比べて非常に多くなっていて、これは新型コロナウイルスの影響が出ているのかと思われます。そのほか、前回と比べ、公共施設で行う方が減ったという結果が出ています。

17 ページでは、だれと行ったかを聞いておりまして、自分 1 人でという方が非常に多く、また前回と比べても非常に増加しておりました。

続きまして、19 ページをお開きください。これまでの質問は運動を行った方に対する質問でしたが、こちらは運動やスポーツを行っていない、または日数が少ない方にその理由を聞いています。約 4 割の方は、仕事や家事が忙しいからで、以下面倒臭い、年を取ったからと続いていて、全体的には前回調査と比べてあまり差は見られませんでした。また、新しい項目として、新型コロナウイルス対策による日常生活の変化という質問項目を作っておりますが、約 15 パーセントの方がそれを理由としていることが分かりました。

続きまして、21 ページをお開きください。ここからは、スポーツ観戦について聞いております。8 割以上の方はスポーツを観戦しており、22 ページに詳細がありますが、そのうち約 9 割の方が東京 2020 オリンピック・パラリンピックをテレビやインターネットで観戦していました。また、直接現地で観戦したものに付きましては、Jリーグを観戦している方が約 4 割と最も多くなっていました。また、その観戦した理由につきましては 24 ページに詳細がありますが、そのスポーツが好きだからが約 7 割で、一番の理由となっています。

26 ページをお開きください。そこからは、運動、スポーツに関するボランティア活動について聞いております。この 1 年間にボランティア活動を行った方は 1 割未満で、行っていない方が約 9 割となっています。28 ページにはそのボランティア活動の内容がありますが、約 6 割の方が自身やお子様所属するスポーツ団体での補助的な活動と回答をしており、一番大きな理由となっています。

続きまして、30 ページをお開きください。今後やってみたい運動やスポーツの有無についてですが、約 8 割の方があると回答しておりまして、31 ページ以降に詳細がありますが、そのうち、約 6 割の方がウォーキングとしており、以下トレーニング、体操、階段昇降、登山、

トレッキング、エアロビクス、ヨガ、ランニング、自転車、サイクリングと続いており、上位にある項目は、先ほど7ページでご説明しました、実際に行っている運動やスポーツの結果とほとんど同じ項目となっております。

続きまして、34 ページをお開きください。こちらにつきましては、スポ柳都にいがたプランについて聞いておりますが、9割以上の方は知らないと回答しており、前回と比べ、ほとんど差が見られませんでした。こちらについては今後、周知に向けた検討が必要ということを大きく感じております。

続きまして、37 ページをお開きください。こちらは、働き盛り・子育て世代への運動やスポーツの機会づくりについて、どのような取組みが有効か聞いたところ、親子で取り組めるイベントの開催がもっとも多く、以下大人になってからの運動習慣が定着するよう幼児期から運動遊びが好きになるような取組み、商業施設など買い物に来たついでなど、気軽に運動やスポーツに触れることができる機会を創出する、運動に徒歩を取り入れるなど、日常生活に運動を取り入れられるよう普及啓発活動を実施すると続いています。

38 ページをご覧ください。スポーツの普及・振興のために今後、新潟市にどのようなことに力を入れてもらいたいかを聞いたところ、スポーツ施設の整備が最も多く、以下スポーツ行事、大会、教室の開催、冬期間のスポーツ観戦の充実、地域のスポーツクラブやサークルのシーン、ジュニアスポーツクラブの育成指導と続いております。

以上、簡単ではございますが、市民意識調査の概要報告とさせていただきます。現状、報告を受けたばかりで詳細な分析を行っておりませんが、次年度以降行う次期スポーツの策定に向けた準備を進めていきたいと考えております。

(西原会長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

(青野委員)

新潟青陵短大の青野でございます。資料をいただきました、予算案のところとアンケート調査の報告書を少しタイアップしてみまして、ちょうど37ページの最後、働き盛り・子育て世代への運動やスポーツの機会づくり、というところで特に挙げられています、親子で取り組めるイベントを開催する。それから、大人になってからの運動習慣が定着するよう、幼児期からの運動遊びが好きになる取組みを行う。ここが、次のものもありますが、ベストワン、ツー、スリーというところで、こういうスポーツに接する機会づくりというイベント、そこが一般の市民の方が臨まれているところかと思えます。予算のところを見ていただきますと、健康スポーツ、生涯にわたるスポーツ活動を推進しますという部分で、ここに予算が配置さ



れているような項目というものが入っていないのかと思ひまして、今後このような市民の皆さんが望まれている部分を予算案の中に健康スポーツ、生涯にわたること、それから子ども時代、幼少年期からの活動が生涯にわたって運動を楽しめる、そういう子どもたちを育てる。そういう市民を育てるといふところにつながっていくのではないかと気がいたしました。その辺の検討をいただけるとよろしいかと思ひました。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。事業名を見て、なかなか見えない部分ではあるのですが、私は先ほど、説明の中のシティマラソンのところで来年度は、事業名が出てきていないので分かりづらいと思うのですが、仮称ではあります「ユニバーサルラン」というものを実施したいと思ひています。

このイベントについては、障がいのある方、ない方も含めて、また親子でも楽しめるようなランニングイベント、イメージとしましては、昨年2月に実施しました、にいがた2キロでのランニングイベントのようなスポーツイベントになるかと思うのですが、そういったものを今回、予算の中に盛り込んでおります。その実施に伴ってその中にも親子で参加できるというものがございますので、これまでなかなかスポーツに取り組むことができないお子さんですとか、そういった方々が気軽に参加できるようなイベントとそれをきっかけにスポーツの定着をしていただければというようなことも含めて、そういったイベントを令和4年度は企画しております。

(青野委員)

シティマラソンのところに、障がいの有無にかかわらずとか、親子ということが入っているということ。私も、千葉県のあるところに在住していましたときに、子どもが小学生のときに、親子マラソンというものに出まして、これもすごくいいきっかけになったと思ひて、我が子が中学校に上がりましたときに、校内のマラソン大会にすごく意欲的に取り組んで、専門は剣道に取り組んでいましたけれども、マラソンにもだいぶ力を入れて、あれは幼少期の親子のランニングをしたその経験というものが楽しかったのかということを感じましたので、ぜひ親子の取組み、マラソン。距離はすごく短くていいと思うのです。親御さんもそんなに長いものはなかなか走れないかと思ひますので、そんな内容を入れていただけたら、ありがたいと思ひました。ありがとうございます。

(齋藤委員)

齋藤です。ご説明いただいたスポーツに関する市民意識調査報告書、資料2の38ページ、スポーツの普及・振興のために力を入れてほしいこと。私も失念して忘れていた部分があるかと思うのですが、一番上のスポーツ施設の整備というところが、一番希望として多かった

のですが、アンケートを答えるときに具体的に、例えばテニス場を作ってくれとか、ホッケー場を作ってくれとか。そういうことを書き込む欄がなかったのですかね。前回よりもコロナの影響かどうか分かりませんが、このアンケートの割合が増えていますよね。前回に比べて。なぜ申し上げるかという、今後にも活かしていただきたいのですが、ほかの市町村に比べて、こんな言い方なんです、新潟市はこういう競技場が少なすぎるとか、競技場が、施設が多すぎるのではないかというような、非常に全国的な視野を持っていらっしゃる方も、もちろん皆さんもそうだと思います。そういう意見が何か反映されている部分があったのかどうか。それから、もしなければ次回になりますけれども、そういうものを備考欄か何かに書き記すような部分があったほうがいいのではないかと。質問と意見とごっちゃになってしまいましたが、以上です。

(事務局)

今ほど、ご質問をいただきました参考1で、意識調査の調査票をお付けしておりますが、一番最後の12ページをご覧くださいと思います。今回、問22となっております。今回、1から18の項目がありまして、1から16以外のその他というところで記載していただくところはあったのですけれども、まだ報告書をもったばかりで、自由記載のところまでご説明できる状況ではなかったのですが、その辺りをまた整理して、次の審議会、策定検討委員会でご報告をさせていただければと思っております。

また、質問の工夫につきましても、また次回にアンケートを採る際も皆さんのご意見を頂戴して、よりよいアンケートを作っていきたいと思っておりますので、その際はよろしく願いいたします。

(速水委員)

速水です。今、説明をいろいろお聞きしまして、私は昨年10月10日の、古町から萬代橋東詰までの約片道1キロくらいでしょうか。あそこの、ウォーキングでもいいし、走ってもいいし、またパラリンピックに出てくれた永田選手も一緒になってやってくれた、ああいふイベントをもっとPRしながら、できるだけ多くの市民の人が参加してもらえるような。聞いたら、参加者が400人くらいだったのだそうですね。ものすごくたくさんいるような感じだったのですけれども、400人。あれで400人、あれ使えるのだったらもったいな過ぎるという感じが特にしておりました。ですから、もっとPRを上手にすればどんどん参加者も増えてきますし、それに向かっての日々の生活も充実してくるのではないかと思います。私の言いたいことはPRということがメインでございます。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。現在コロナ禍ということ、また、ものすごく人数が多いと。

それはそれでまた密という部分がございまして、なかなかその辺のバランスというものがあるかという部分はあるのですけれども、今回参加いただいた方々にアンケートを採らせていただいたところ、非常に多くの方からよかったというようなご意見というか、感想をいただいております。ですので、われわれとしても、非常に天気にも恵まれて非常にいいイベントだったと思っております。もちろん、より多くの方から参加していただくということは非常に大切だと思っております。PRの仕方ですとか、ああいったことにつきましては工夫をして実施をしたいと思っております。何かいいPRの方法が、こういった方法がやはりいいのではないかとか、そういったようなアドバイスがありましたらよろしく願いいたします。

(西原会長)

ありがとうございます。多分あれですね。なかなか大きな、マスメディアもそうですけども、SNSがすごく普及しているからそういったところでもこまめにやっていくと、またいいのではないかと思います。速水委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

(太田委員)

太田でございます。今のPRのところに意見というか、提案です。最近、チラシ広告で文字でというよりも、若い人を引きつけるには動画というところがありますので、短め30秒でもいいですね。そういうPRの、だれかお話の上手な方を呼ばれてPRされるなんていう方法もそんなに費用は逆にかからないと思いますのでよろしいかと思います。

そして、次です。スポーツ観戦ですとかやってみたいスポーツというところにも、七、八倍の方々が興味を示されているというデータが出ています。そして、いろいろなイベントがあっても参加される方というのも増えているというところがあります。というところから、コロナ禍を考えて、密を避けるという意味で、一気に1日でこの人数をやろうとすると大変ですけども、1日あたりは規模を控えて何回か連日にする。3日間で参加される方を変えて、密度を避けて、皆さんスタッフの負担も考えながら、小規模ずつのものを3日間で開催されるとか、あるいは月1回ずつに分けて小規模で開催されるとか、密を避けて、時間も少し長めだけれども、スタッフの負担も軽めにするというようなそういう工夫をされるということもいいかと思いました。それが二つ目です。

次ですけども、今度、スポーツや運動に親しまれていない方をどう引き上げていくかということと考えますと、アンケートのところ19ページで、仕事や家事が忙しいからというのは、これはこちらの会議はスポーツを推進したいということになりますけれども、参加できない理由が、例えば保育問題とか介護とか交通のアクセスとか、そういうところにあるかも

しれないので、どうやったらやれるようになるかというところを、次なるアンケートのときに市民に聞かれるといいかと。つまり、問 22 のところでフリー記載のその他はあるのですけれども、1 から 16 は大体スポーツに関係したことなのです。それ以外の、もう少し生活の基盤となって市民の困りそうなところというのは拾えていないのかと。そこが今度、スポーツ参加者、運動参加者を増やすことになるかと思います。意見です。

最後に、37 ページの結果で、大人になってからの運動遊びという項目があるのですけれども、こちらは今日、市のスポーツ協会の椎谷さんもいらっしゃっていますが、国の J スポのアクティブチャイルドプランに関連する事項だと思います。あちらのスポーツ協会のほうも官民で連携してやっていきたいという、そういう気持ちがあるようですので、現場の部分で指導者の集まっているスポーツ協会、そして行政の部分で新潟市の方々と連携してやっていたらもっと素晴らしい。どちらにとっても、みんなが、市民も幸せになる。すべてがウィン・ウィンな関係になるようなものではないかと思います。

その三つ下の、医療機関と連携したということは、まさに私が取り組んでいる分野でもあるのですけれども、運動が治療になるというところ。医療機関と連携しているので、リスクのある方も参加できる、そういったところを創出するという機会づくりのアンケートで調査されていますので、ぜひともスポーツ審議、委員会、この課だけではなく、縦割り行政ではなく、関連する新潟市の中でも連携されて、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。長くなりました。

(西原会長)

ありがとうございました。今、4 点のご提案をいただきましたが、事務局から何かありますか。

(事務局)

ありがとうございます。まず、コロナ禍で日を分けてという部分についてでございますけれども、もちろんコロナがなくなったということではございませんので、今年度シティマラソンの話ばかりして申し訳ないのですけれども、実施にあたってどういった方法がとれるのかというところについては、他都市の状況等を情報収集しながら、工夫して実施をしてみたいと思っております。ありがとうございます。

それから、アンケートの 19 ページのところ、どうやったらスポーツに取り組めるようになるかというところについては、ご指摘のとおり、また次のアンケート等機会がありましたら、考慮したいと思っております。また、連携の部分については、もちろんスポーツ協会だけではなくて、市と教育委員会と必要に応じて連携を取っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ご意見ありがとうございます。

(太田委員)

ありがとうございます。よろしくお願いします。

(事務局)

皆さん、いろいろご意見ありがとうございます。報告会のアンケート調査については、今後、例えば、今の話ですと、スポーツをなぜしなかったのかという方を集計と、そのあとにそういう方も含めて、これからやりたいスポーツは何ですかという項目がございますので、例えばこういったものをクロス集計する中で、何か見えてくるものがあるのかもしれませんが、それはこれからの分析ということで、まだ本当に単純に質問に対する回答がどうだったかというだけの報告ということで、そのあたり、今皆様方からいろいろいただいたご意見を踏まえて、クロス集計などについても考えて、分析をしたいと思います。ありがとうございます。

(西原会長)

ありがとうございました。多分、そうですね。データを複合的にクロス集計していくといろいろ見えてくるかもしれません。

スポーツの抵抗条件とよく言われるのですが、主体的条件と必然的条件、社会的条件の三つがあると言われますけれども、やはりそこをきちんと区別すると方策が出てくるかと思いました。

Jスポ、日本スポーツ協会のアクティブチャイルドプランというものがあって、これがなかなか私も、太田先生もかかわっていらっしゃる、私もかかわっていて、なかなか市町村に下りてこないですね。だから、この辺はやはり、国としてももう少し下にきちんと下ろしていくということをやっていかなければいけないと思っていますが、そこは課題だと思っています。ありがとうございました。

(市スポーツ協会)

今ほどACPについて、ぜひできたらというお話がありましたので、スポーツ協会ですけれども、期待したいと思います。実は、ACPの紹介で、ここにまさしく書いてあります、大人になってから運動習慣の定着という、この目的に沿った形で、実は昨年10月に実施いたしました。さらに、3月に実施しようということで、広報したのですが、残念ながらコロナで開催中止となりまして、またぜひ来年度に向けて開催できたらいいということで今、考えています。

(五十嵐委員)

五十嵐といいます。お願いします。相対的なことをお聞きしたいのですけれども、市民意識調査というものは20歳からということになっているのですけれども、今話を聞いていま

すと、やはり運動習慣期の子どもからということで、私たちはスポーツを推進、振興させるためには、子どもからスポーツを好きにさせるということが大切だと思うのです。ということは、子どもたちが今、何がやりたいのかということをおぼえていないと、大人になってからはなかなか運動をしようという気持ちにはならないだろうし、若い子どもたちの希望をおぼえていないとどういう施設を造ったらいいのかということも浮かんでこないということなので、どうして20歳以上にアンケートをしたのかと。どの辺まで年代を下げたらいいのかという問題もありますけれども、やはりこれからの、いわゆるニュースポーツというか、子どもたちの考えとアンケートというものがどこまでマッチしているのかという、いわゆる妥当性というか。その辺のところをお聞きしたいということです。今後行ってみたい運動やスポーツとなりますと、ウォーキングだとかぶらぶら歩きだとか、子どもたちがそういうものをおぼえたいのだろうかと思うと、とてもそうは思わなく、もっとアーバンスポーツ的なもの、そういうものがないからやれないのではないかと、やってみたくて具体的に思わなくなってくるし、宣伝しないと、あるいはこちらからいろいろなそういうものを発信しないとやらない。けれども、そういう施設があれば、放っておいてもそこに通ってきて、今の子どもたちが本当にやりたい場があれば、積極的にやってくれるのではないかと、すみません。相対的な、ただそれでした。すみません。

(西原会長)

ありがとうございました。いかがですか。今、例えば、スケートパークなどをいろいろ考えられたりして、やはり若者たちがやりたいスポーツというものがあると思います。今、スポーツ庁の調査もやはり20歳からになっているのですか。

(事務局)

スポーツ庁の調査も20歳になっておまして、うちのスポ柳都の目標も20歳以上というところまでうたっておりますので、今回はそういった形で20歳というものもありますが、今後そういったデータも必要になってくる部分も考えられますので、教育委員会と共有する部分もあったり、こういったお金をかけたアンケートでなくても、新潟市でLINEを使った簡単なアンケートであったりそういったこともできると思うので、そういったことも活用しながら情報を集めていければいいかと考えております。

(西原会長)

ありがとうございました。むしろ、形式張った調査よりも、そういうLINEとかでやったほうが、むしろ若者たちは答えてくれます。

(五十嵐委員)

特にアーバンスポーツなんて、子どもというか若者が中心になっていて、盛んになってい

ますから。

(西原会長)

そうですね。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(高橋委員)

高橋と申します。どうもお疲れさまです。

先ほど、ご説明をいただきました意識調査の中で、一番驚いたことは、スポ柳都にいがたについての知名度が、9割の方がご存じないというところが。しかも、前回調査とあまり大きな変化が見られないというところがとても残念だと思いました。というのは、シティマラソンだとかいろいろなスポーツ大会を多くの市民の方がご存じなはずで、それとスポ柳都にいがただと、皆さんがスポーツ振興で取り組んでいらっしゃる取組みが、リンクがなかなかしていないということなのかと思いました。ですので、おそらくこれがみんなスポ柳都にいがたに関係しているのだということになれば、もっと知名度も上がるのではないかと思いますし、そういったことが市民の健康づくりの動機付けにもなってくるとも思いますので、そこをどうにかリンクされていくような取組みができればよろしいのではないかと感じました。

また、にいがた2キロもだんだん最近、知名度が上がってきているのかと思うのですが、一時的、本当にこの間は2キロだったのかということがすごく驚きだったのです。ですので、これだけアンケート調査でもウォーキングをしたいとかされているという方が多くいらっしゃる中で、2キロはけっこうちょうどいい距離なのかと思うものですから、いろいろなところから、ここからここは2キロだとかそういうことが分かるように距離表示を付けて、そこにいちいちスポ柳都にいがたと書いてみるとか、いろいろな方が簡単に、これは運動なのだ、スポーツなのだとか意識付けできるような取組みができると、もっと市民の健康づくりに活かせるのではないかと感じました。感想で恐縮ですが、以上でございます。

(西原会長)

ありがとうございます。よろしいですか。事務局から、特に。課長、お願いします。

(事務局)

ありがとうございます。たしかに、このアンケートの34ページの結果を見て、非常に危機感を我々も持っております。年数は経っていますけれども、ほとんど変わっていなかったというところで、どういう形で知っていただくのかということについては、我々も研究していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(青野委員)

青野です。もう1点気づいたところですが、健康スポーツのところ、氷上スポーツ体験。氷上は、新潟市はスケートリンクができましたので、ここは盛んに行われるところかと思

ますが、やはり雪国である新潟県、新潟市は雪が少ないのですけれども、私は今回、今シーズンは胎内スキー場、新発田のニノックススキー場等々で3回くらい土日に出掛けていて、スキーだけでなく、そり遊びであるとか親子でいろいろ楽しんでいるご家庭の様子を観察させていただきました。やはり、ああいう雪に親子で楽しんでいるということが素晴らしいと思いました。ただ、それをやりたくても、お子さんと親がなかなかそういうところに積極的になっていただけないご家庭はそういうところ、特に新潟は雪が少ないですから。でも少し行けば胎内とか、新発田とかそういう雪環境がある。

それから、この前、スポーツ協会のイベント、取組みのところでも、総合型スポーツクラブの取組みで雪遊びをやっているかということをお聞きしたら、やはり雪遊びは取り組んでいない。やはり、体育館、室内ということですね。やはり、このコロナ禍においては、冬場では、子どもたちをできるだけ屋外に出して、感染リスクも少ないですから、そういう冬場での雪を利用した遊び、その環境になれば何か市で子どもたち、親子のイベントみたいなもので、雪のある場所で遊ばせるようなイベントを設定してあげる。東京オリンピックでも村上のスノーボードの平野さん、彼は多分、幼少期からそういう環境にあって、オリンピックになって世界的に大活躍をされた。新潟を代表するような、日本を代表するようなオリンピックが生まれました。それは、やはり幼少期からの体験、環境というものがとても大きかったのではないかと思います。

新潟市は雪以外、私も新潟に来て12年目になりますが、こんなに少なくてびっくりしましたけれども、少し行けば雪遊び環境がありますので、ぜひそこ、市の予算とかも少し計上していただいて、子どもたちが雪遊び、雪合戦、何でもいいですけども、親子でまた、できれば一番ベストかと思いますが、そういうイベントを考えていただくということもとても重要ではないかと思いました。

(西原会長)

ありがとうございました。また、ぜひご意見を反映していただければと。検討していただければと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、最後に、次第4になりますが、その他として、委員の皆様から何か、全般に渡ってご質問やご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

(小島委員)

小島です。よろしく申し上げます。意識調査の、このアンケートの結果を見ながらというか、データで最初このあたりも全部いただいて目は通していたのですが、すごく私事ですけども、去年の12月に主人が退職して、それから家にいます。孫の送迎があったりはしたの



ですけれども、1週間前から2人になりました。

私は、どちらかといえばアクティブに動くほうですが、主人は動きません。せっかく自転車があるから、乗ってきたらと言ってもやりません。本当に、これを見ながらやらない人の心理というか、それをどうやったら探り出せるのかと。どうやったら、お父さんが外に出て体を動かしてくれるのかとか、そういうふうには実は2週間くらい悩んでいるのです。それで、わりとこれは1人でスポーツ、体を動かす人が多いというアンケート結果ですけれども、多分1人でできる人は、10代、20代、30代その頃から1人でできる人なのです。多分、その頃できていない人は60歳を過ぎててもできないのだと思います。何かきっかけがない限り。そのきっかけをだれがつくるのか、どうつくるのか、どこにあるのかって今、小島家で言うと、孫と一緒に土日をお過ごしことが多いので、ここの中では親子があるのですけれども、じいちゃん、ばあちゃんとちっちゃい子というセットも一つ取り入れていただけると、毎回公園に行く度に私がほぼ遊んでいて、じいじは疲れたと言ってすぐ休んでしまうのですが、そのじいじをいかに外に出して孫と一緒にたくさん遊べるようにするかということが今、小島家の課題なのです。ですので、きつとうち以外にもそうやって退職されたお父さんたち、お母さんたちはどちらかというともともと外に出て、ボランティア活動とかする人のほとんどが女性ですので動く人たちは多いと思うのですけれども、男性は割合として少ないですから、いかに世間とつながりを持つてけっこう難しいのです。ずっと会社勤めをしていて、なかなか外に、やはりそういう意味では女性のほうが強いのかと。だから、家族の内々で楽しみながら体も鍛えられて。

それと、1週間前に糖尿病だということが分かって、それからウォーキングをしようか言っているのですが、やはり、そうやって病気が分かるまでなかなか動かないというケースもあると思います。だから、そうなる前に、病気になる前に、病気にならないようにということもすごく全面に出しながら、世のお父さん、お母さんたちに伝えていけるのかということも私なりにとても悩んでおりました。すごく私事の意見でした。

(西原会長)

ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。

(齋藤委員)

ついでに。同意意見を二つ。今、小島委員から言われた、本当に高齢化社会によって親と子どもというのも、私も5人の孫がいるのですけれども、じいさん、ばあさんと孫、その遊ぶところ、体を動かすところって実際、孫はほとんど首都圏にいるのですけれども、新潟に来られると本当に困るのです。そういう施設というのはやはり、娘なんか今、東京都中央区の晴海にいますけれども、ものすごく多いのです。たまに向こうに行くと。親子、じい、ば

ばと子どもたちが遊ぶ施設が、あの都会のど真ん中にすごく多いのです。具体的に数は言えないのですけれども。新潟の場合、たまにい〜てらすって、皆さんご存じのとおり満員です。本当に外も中も。施設が少ないのだと実感しています。

もう一つは、雪のお話で、これも孫が来るときに困ってしまうのですけれども、雪遊びをしたいのです。ところが、スキー場に行かないと雪遊びができない。本当は雪国の中では何かそういう施設が、高いところに行かなくても雪のあるときってありますよね。いかに少雪になってもそういうものが新潟市って、改めて私はいろいろ取材してみたのですけれども意外とないのです。安全で。それこそ、雪合戦をしたり、雪だるまを作りたいといっても、どこに連れて行こうかと思ったり、本当に困った。全く雑談でございます。

(西原会長)

ありがとうございました。今、実は高齢者と子どもというところの接点だと思うのですが、高齢者と子どもって、実は神経系の一番大事なところなのです。高齢者は神経系から一番最初に落ちていくし、子どもは神経が一番最初に発達してくるので、そこで実は体力も同じくらいの体力を持っているから、実は子どもと高齢者が一緒に運動するってすごく大事なことだと言われてはいますが、やはりそういうことを意識してやっていただくと思っています。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

(田巻委員)

先ほど、小島委員からのお話で、いくつか気がついたのですけれども、糖尿病が分かってという話。全くスポーツと違う分野でも、実は、りゅーとぴあのような文化施設なんかでも、中年以上の男性をいかに引っ張り出すかということが非常に課題だということが言われていますし、カルチャーセンターみたいなどの受講生ということでも、もう齋藤委員がよくご存じのようにもうかなりの、8割、9割の受講生が女性なのです。ですからスポーツの振興、スポーツやりましょうと、週1でスポーツをやる割合を増やしましょうというときに、男性をいかに、例えば体育館の主催の教室なんかにもたくさんいる。夜やっている教室があるということも分かりますし、私がずっと参加しているエアロビクス教室なんかでも、私が黒一点の第1号で参加したのですが、今はもう東スポなどで、70代くらいのおじいちゃんが3人くらい今、「おめさんがしてるっけ俺ったでもできかと思っさ」って、そういうような何かきっかけがあればですけども、視点として中高年以上の男性をいかに引っ張り出すかということもいろいろなことを企画していただく中で、視点として持っていただくとか何かしら必ずプラスになるのではないかという気がいたしました。

(西原会長)

ありがとうございました。なかなか、市の大きなイベントとしてというところで組むのは難しいですけども、やはり新潟市は振興会とかもありますし、あとは総合型クラブハピスカなんかも一つあります。ああいうところで、いろいろなイベントができるといいですね。

(山内委員)

課長、今、各スポーツ施設でいろいろなスポーツ教室をやっていますよね。その中で、いわゆる高齢者あるいは男性の方がどれくらい入っているか云々分かりますか。公社事業になると思うのですけれども、けっこういるはずなのですよ。

(事務局)

すみません。今、手元に資料はありませんが。

(山内委員)

けっこうです。そういう意味で、先ほどもだれかが言っておられましたけれども、PRの方法で参加される方が、かなりまた数字的には増えてくるのではないかと思うので、その辺も上手にやっていただければありがたいと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見が出尽くしたのか分かりませんが、出尽くしたと思いますので、以上で本日予定しておりました議事についてはすべて終了したいと思っています。

それでは、司会を事務局にお返ししたいと思います。

(司 会)

西原会長につきましては、皆様の意見をまとめながらスムーズな議事進行をどうもありがとうございました。委員の皆様にはいただきました貴重なご意見をもとに、今後スポーツ振興に取り組んでまいりたいと思います。

なお、委員の皆様におかれましては、3月31日で任期が満了になります。これまでのご審議、心より感謝申し上げます。新年度からの審議会の委員構成につきましては、現在、事務局にて新たな委員の委嘱準備を進めさせていただいております。今回でご退任される委員の皆様には、これまでのご尽力に心から感謝申し上げます。

退任される委員は、五十嵐委員、小島委員、阿部委員、田巻委員、山田委員。それから、本日は欠席となっておりますが、小野委員、笠原委員の7名の方々となります。誠に恐縮ですが、ご退任される委員の方々にごあいさつを頂戴したいと思います。最初に、五十嵐委員よりお願いしたいと思います。

(五十嵐委員)

長らくお世話になりました。自分では四、五年かと思ったら、先ほど聞いたら8年か9年ということで少し長くやり過ぎたと思ったのですけれども、本当に微力で、何のお力添えもできないとつくづく思っております。私自身この会に出させてもらって、非常に勉強をさせてもらいましたし、本当に新潟市のスポーツ振興は、いつも思うのですけれども、やはりどこが主体になって、どこが中心、中心ということはないのですけれども、大切な年代の人たちを育てて、自らがスポーツに馴染むような、やりたいという気持ちにさせる、そういうようなものを作っただけだと思います。新潟市の全世代、いろいろなスポーツに向けてこれからも発展していくと願っております。長い間ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。続いて、小島委員お願いします。

(小島委員)

私も何年やったか分からないくらいやっているらしいのですが、大変長い間お世話になりました。恥ずかしながら、先ほどのアンケートにもあったスポ柳都にいがたという言葉も、実はこの会に参加させていただいたときに知りました。右がバスケットボール、私の30の子供がミニバスをやっていたときから現在に至るまで、今でもかかわっていますし、小学校にもかかわりを持っているにもかかわらず、そのスポ柳都にいがたという言葉を知らなかったと非常に恥じております。機会がある度に、新潟市がこんなに頑張っているといったものも保護者や子どもたちに伝えて、今後も伝えていければと思っています。

あと、スポーツというものがどうしても、子どもたちにとってはバスケットやサッカー、目に見えるもので体をバンバン動かす球技で、というようなものがどうしても目につくのですが、子どもたちにとってもっとハードルの低いスポーツ、そういったものもたくさんあるということをどんどん紹介して、みんなに体を動かすだけでもいいという、そんなふうハードルを下げていけたらと思っています。本当に大変お世話になりました。今後も皆様のご活躍を期待しております。ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。続いて、阿部委員お願いいたします。

(阿部委員)

阿部と申します。私も長くここにどうやらいたようです。私は、小島委員と同じように、この会に参加をさせていただいて、はじめてスポ柳都にいがたを知った1人でございます。スポーツには非常に興味もあるし、まだまだそれなりに体は動くぞと自分では思っているのですが、やはり仕事があったり、年齢を重ねる度に何か一步踏み出すきっかけがないとなかなか、やりたいやりたいという気持ちだけで体が動いていかないというようなところもあり

ますので、ぜひ、ハードルの低い活動やイベントたくさん計画をしていただいて、私のような出不精な人間や、それから先ほどありました、お孫さんとおじいちゃん、おばあちゃんというような、活動をたくさん担って、またスポ柳都にいがたというところが市民の皆さんに広く周知されて、活気ある新潟になったら嬉しいと思っております。私は本当に何も、いるだけで何もお力になれませんでしたけれども、とてもいい機会をいただいて勉強をさせていただきました。ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。続いて、田巻委員お願いいたします。

(田巻委員)

最初、会が始まるときに、事務局の方に任期がきましたと言われて、えっと。本当に2年経ったのかと思っております。私は、最初にあいさつをしたと思うのですが、全くスポーツはど素人です。ど素人ですが、市の体育館の教室などに定期的に参加している、素人だけでも、参加しているという人間の立場でかかわらせていただいたと思っております。実は、スポ柳都にいがたの一番最初のときにも、公募委員をさせていただいて、うっかり作文を書き忘れて途切れたという苦い経験がありますので、これからの市報を毎号必ず目を皿のようにして、公募の募集があったら頑張って作文を書こうと思います。だから選んでくださいという裏口ということでは決してありませんが、ぜひ作文を書いて挑戦したいと思います。ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。続いて、山田委員お願いします。

(山田委員)

皆様、山田です。2年間お世話になりました。といっても、ほとんど座っているだけで何の役にも立っていないのですが、非常に多くのことを勉強させていただきました。いろいろな有識者の方々、有識者の先生の方々、専門家の方々、皆さんの様々な視点が非常に勉強になりました。

実は私は、こちらに公募という形で応募させていただく前に、何とかこちらの審議会で、後ろの傍聴席にひっそりと見に来ていたことがありました。その頃から面白いと興味深く思っておりました。別にこちらの、ここの席に座ることに憧れがあったわけではないのですが、この場で皆さんの話をいろいろお聞きしていきたいと思っておりました。自分がこちらに応募させていただくきっかけといえましょうか、は、自分は病院でリハビリの仕事をしております。多くの患者さんたちを見させていただいていた中で、やはり車椅子の方々もいれば、体が不十分な方々も何だかんだいろいろなスポーツをしたいとか、社会参加の糸口を皆、見つ

けたがっている方々がけっこういらっしゃいます。そうした方々に、何かしら機会を、それまでも私はいろいろ橋渡しをしてきましたけれども、こちらの新潟市のスポーツ事業という中で、何かしらつなぐことができないだろうかというような、そういう思いがありました。結果としまして、新潟シティマラソンなんかは 2009 年の新潟シティマラソンになってから車椅子の方々が出れないということになりましたが、いよいよ開催要項にあった車椅子では出れませんという言葉がようやく外れそうだということになって、本当に安堵しております。様々な方々にスポーツの機会、スポーツに限らないのですが、体を動かす機会を提供する。そのきっかけとなる象徴的なイベントになっていただけたらと思っております。そういうことも含めまして、ぜひ新潟市がスポーツを通じて活気あるまちになっていくこともそうですし、インクルーシブなまちになっていく。そうした目線をぜひ入れていただいて、これからは新潟市のスポーツ事業を私も影ながら応援していきたいと思っております。ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。皆様方におかれましては、今後とも本市のスポーツ振興にご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

また、来年度からの新委員の方につきまして、公募等を含めて、現在調整中です。3名の方に内諾をいただいておりますので、この場でご紹介させていただきます。学識経験者として、新潟経営大学経営情報学部長の杉浦善次郎様、スポーツ団体関係者として、新潟市野球連盟常任理事の頓所理加様、同じくスポーツ団体関係者として新潟県馬術連盟理事長の徳田絵美様のお三方となります。

また、事務局からの報告となりますが、文化スポーツ部長の長浜が3月末で定年退職、スポーツ振興課長の武藤が4月より福祉総務課へ異動となります。この場をお借りしまして一言ずつ、お世話になりました皆様へごあいさつ申し上げます。

(文化スポーツ部長)

すみません。貴重な時間を頂戴いたします。今、司会が申しましたとおり、この3月で定年退職ということでございます。この2年間、皆様方と審議会の場を通して顔を合わせる機会があったわけですが、本当にいろいろな立場からすごく多才な視点からのご意見をということで非常に勉強になりましたし、これから計画の策定等もありますけれども、そういった中にしっかり取り入れていくように、後任にも引き継いでまいりたいと考えております。本当にお世話になりました、大変ありがとうございました。

(スポーツ振興課長)

スポーツ振興課に来まして4年ということになりました。後半の2年は、まだ終わってい

ませんけれども新型コロナウイルスの影響で、スポーツについてはコロナに関しては何かと向かい風といたしますか。非常に難しい状況ではあったのですけれども、そんな中、また施設の休館ですとか、皆様の活動自粛ですとかそういったことで、本当に難しい2年間だったと思っております。こちらに来て、またこういった進化を通して、皆様から本当にたくさんのご意見をいろいろいただきまして非常に勉強をさせていただきました。

今度行くところが福祉総務課というところで、全く畑の違うところになりますけれども、違った形でまたスポーツに携われればと思っております。皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

(司 会)

最後に事務連絡となりますが、来年度、新たなメンバーでの1回目の審議会は7月26日を第一候補として考えております。もう少し時期が近づきましたら、改めて日程のご確認をさせていただきます。

なお、今ほど申し上げました、通常の審議会の開催とは別に、参考資料2としてお配りしております、仮称第3次スポ柳都にいがたプラン策定スケジュール(案)をお付けしております。ご覧いただければと思います。次年度はプラン策定年となるため、通常より審議会の回数を増やし、皆様のご意見を頂戴できればと考えております。お忙しいところおそれいりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。こちら、時期が近づいてまいりましたら改めてご連絡いたしますのでよろしくをお願いいたします。

以上をもちまして、令和3年度第2回新潟市スポーツ推進審議会を終了させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。